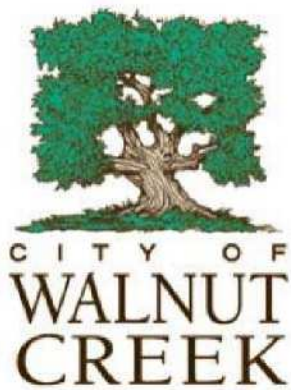


2017 北区青少年交流団

ウォルナットクリーク市派遣報告



平成 29 年 8 月 11 日～21 日

東京都北区

目 次

1	交流団の派遣の趣旨・目的	P 1
2	事前の研修会	P 2
3	交流団名簿	P 3
4	ホストファミリー名簿	P 4
5	派遣日程	P 5
6	交流活動の概要	P 7
	交流団員報告書	P 1 1

本報告書の作成に当たって使用した写真は、
北区が記録用として撮影した写真及び交流団
員が撮影した写真を使用しました。

1 交流団の派遣の趣旨・目的

北区とウォルナットクリーク市は、同市内の私立学校セブンヒルズスクールとの「区立中学生海外交流事業」を実施し、長年にわたり相互に訪問交流を行ってきました。

この両自治体の交流をさらに発展させるため、平成29年4月25日に「パートナーシティ協定」を締結し、文化、教育をはじめ、幅広い分野の交流を通じ、相互理解と連携をさらに深めていくこととしました。

これを受けて、8月11日（金）～21日（月）までの11日間、区内在住の高校生10名を同市へ派遣し、異文化への理解と国際的視野を持った人材を育成するとともに、英会話能力の習熟を図り、北区や日本の良さを伝え、友好親善の礎となることを目的とした「青少年交流事業」を実施することとなりました。



平成29年4月25日調印式（花川区長とウエデル次期市長）

2 事前説明・研修会

- 第1回説明会

日時 6月17日(土) 14:00~15:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 交流団参加者紹介、ウォルナットクリーク市との交流経過について
派遣日程の概要、今後の手続き・注意事項

- 第1回英語研修会

日時 6月17日(土) 15:30~17:30
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーション準備(プレゼンテーションとは)

- 第2回英語研修会

日時 7月1日(土) 15:00~17:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーション準備(北区の紹介)

- 第2回説明会

日時 7月22日(土) 14:00~15:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 渡航書類配布・説明、派遣にあたっての諸注意

- 第3回英語研修会

日時 7月22日(土) 15:30~17:30
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーションのまとめ

3 交流団員

(敬称略)

氏名		学年
天野 沙織	Amano Saori	高2
浮田 貴久乃	Ukita Kikuno	高1
緒方 志歩	Ogata Shiho	高1
小山 もえ	Oyama moe	高2
喜多村 直輝	Kitamura Naoki	高1
小磯 宏喜	Koiso Hiroki	高2
舘野 舜一郎	Tateno Shunichiro	高1
藤田 和奈	Fujita Kazuna	高2
宮地 智梨	Miyachi Chieri	高3
吉田 はなこ	Yoshida Hanako	高3

4 ホストファミリー名簿

派遣団員	ホストファミリー
天野 沙織 藤田 和奈	トーマス家
緒方 志歩	ヘルトン家
小山 もえ	ディシルバ家
喜多村 直輝 舘野 舜一朗	コロネル家
小磯 宏喜	オズボーン家
浮田 貴久乃	マクラリー家
宮地 智梨	バートン家
吉田 はなこ	ポートナー家

5 派遣日程

スケジュール													
日程	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	備考	
8月11日	金					14:15 成田空港集合		16:55 ユナイテッド航空838便 サンフランシスコへ					
～日付変更線～		10:40 サンフランシスコ国際空港着後 市内見学					15:00専用バスにてホテルへ					・ホテル泊	
8月12日	土	ホストファミリーとの 対面式			ホストファミリーと過ごす							・ホスト宅 8泊 ・対面式では北区紹介の プレゼンテーションを実施	
8月13日	日	ホストファミリーと終日過ごす											
8月14日	月	フォトグラフィーワークショップ (カメラの基本操作を学ぶ)											・ウォルナットクリーク市 Civic Art Center主催の ワークショップに現地の子供 たちと共に参加
8月15日	火	フォトグラフィーワークショップ (写真撮影) 撮影場所: Ruth Bancroft Garden											・初日は北区紹介の プレゼンテーションを実施
8月16日	水	フォトグラフィーワークショップ (Field Trip) 撮影場所: サンフランシスコ ダウンタウン											・サンフランシスコダウン タウンにてストリート写真 の撮影 ・ピア24のmuseum The Grain of the Present を訪問、写真撮影
8月17日	木	フォトグラフィーワークショップ (撮影した写真の選択と編集)											
8月18日	金	フォトグラフィーワークショップ (フォトブック作成、作品展示)					15:00 市庁舎訪問 施設視察						・市庁舎訪問、市警察署の 視察
8月19日	土	ホストファミリーと終日過ごす							17:30~19:30 フェアウェルパーティー			・フェアウェルパーティーは Civic Art Centerのホール で開催	
8月20日	日	7:30集合 サンフランシスコ 空港へ		11:45 ユナイテッド航空 837便									
8月21日	月					14:35 成田空港着							

ウォルナットクリークのカリフォルニア内位置



ウォルナットクリーク市
人口 70,018人(2016年現在)

【参考】コントラコスタ郡
人口 1,123,429人

カリフォルニア州
人口 39,255,883人

6 交流の概要（※は現地時間）

8/11 出国日

14：30 成田空港集合

16：45 サンフランシスコ国際空港へ出発！

待ちに待った出発の日です。みんなで協力してこの日を迎えました。



サンフランシスコ国際空港



フィッシャーマンズワーフ

- ※10：40 サンフランシスコ国際空港着
入国手続き後、空港よりバスにて市内視察＆ランチタイム
- ※17：00 ホテル着

8/12 ホストファミリーとの対面式

※10：45 ホストファミリーとの対面の日でした。



ホストファミリー



プレゼンテーション

ホストファミリーに向け、北区を紹介するプレゼンテーションが始まりました。最初のうちは、緊張した面持ちでしたが、ホストファミリーが楽しんでいる様子が伝わり、徐々に緊張が解けていきました。午後からは、それぞれのホストファミリーのお宅へ。ホームステイが始まりました。

8/14～18 ウォルナットクリーク市が運営するワークショップへの参加

※10:00～15:00



現地のフォトグラフィーワークショップへ参加しました。

団員と現地の青少年でペアを組み、講師の指導を受けながら

カメラの基本操作から編集まで一生懸命取り組みました。

接写写真からストリート写真まで、様々な撮影方法を学びました。



Shadelands Facility での写真撮影



Ruth Bancroft Garden での自然写真撮影



サンフランシスコダウンタウンにてストリート写真撮影



ピア24の展示見学・撮影



写真編集作業

8/18 ウォルナットクリーク市庁舎訪問、警察署見学

※15:00~16:00 市庁舎訪問 施設見学

警察署は市の管轄であるため、市庁舎内に警察署が併設されていました。



市担当者による説明



警察署見学

8/19 フェアウェルパーティー

※17:30 この日はホストファミリーとのお別れ会、フェアウェルパーティーの日でした。パーティーが始まった時点では、かしこまっていた団員たちも、笑顔で談笑していました。



～ フェアウェルパーティー ～

8/20 帰国日

※7：30 ホストファミリーとのお別れの時間です。朝早い時間にもかかわらず、多くのホストファミリーが見送りに来てくれました。
涙で潤んだ目をした団員も
「また、会おうね」「今度は日本に来てね」とそれぞれ約束をして、笑顔でバスに乗り込みました。



Let's meet again !



交 流 団 員 報 告 書

浮田 貴久乃

緒方 志歩

喜多村 直輝

舘野 舜一郎

天野 沙織

小山 もえ

小磯 宏喜

藤田 和奈

宮地 智梨

吉田 はなこ

※団員から提出された感想文を原文のまま掲載しています。

「自分を大きく変えた10日間」

浮田貴久乃

8月11日から8月21日の約10日間、アメリカ、カリフォルニア州にあるサンフランシスコから車で約1時間の場所にあるウォルナット・クリーク市に北区青少年海外交流団の一員として滞在させていただきました。

現地に行くまでに、3回の事前研修がありました。事前研修ではネイティブの先生が来て下さり、現地では英語でプレゼンテーションするための文章構成などを全て英語で教えていただきました。

成田空港から出発し、アメリカのサンフランシスコ国際空港に着いたのは、現地時間で10時頃でした。

1日目はサンフランシスコの市内を視察しました。フィッシャーマンズ・ワーフを訪れ、アメリカの伝統的な料理であるクラムチャウダーを食べました。その日は、HYATT house Pleasant Hill というホテルに宿泊しました。翌朝の2日目、いよいよホストファミリーとの対面の時がやって来ました。事前にメールでコンタクトは取っていましたが、いざ対面の時となると、とても緊張しました。対面した後、メンバー全員で北区のことをプレゼンテーションしました。私は北区のお祭りについて発表しました。北区の代表的なお祭りである、「赤羽馬鹿祭り」を由来に沿って発表しました。とても緊張しましたが、最後まで頑張ることができてよかったです。

2日目からはホームステイをしました。私は以前アメリカでホームステイをした経験があったので、ホームステイでの生活に対してはそこまで不安はありませんでした。しかし、英語での日常会話にはとても不安がありました。けれども、ホストファミリーの皆さんはとても優しくて私が理解するまでゆっくり分かりやすく話してくれたので良かったです。

3日目は終日ホストファミリーと過ごしました。午前中は教会に連れて行ってもらいました。午後には大型のショッピングモールに連れて行ってもらい、アメリカで有名なものをたくさん教えてもらうことができました。

4日目から8日目はウォルナット・クリーク市が主催したワークショップに参加しました。現地の高校生と写真の撮り方を学び、実践し、ガーデンに行き植物の写真を撮ったり、BARTという地下鉄のような乗り物でサンフランシスコに行き、ストリート写真を撮ったりしました。そして、撮った写真をパソコンで編集し、フォトブックを作りました。皆の写真がとても素敵でした。

8日目の午後はウォルナット・クリーク市の市役所に行きました。市の説明を受けたあと、市役所内にある市の警察署に案内していただきました。滅多に入れる場所ではないのでとても貴重な経験でした。

最終日にはホストファミリーがサンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジに連れていってくれました。チャイナタウンも通ったりして楽しかったです。午後にはフェアウェルパーティーに参加しました。楽しかった反面、別れるのが寂しいとも感じました。それほど素敵な思い出がたくさん出来たのだと実感しました。今回のプログラムを通して、アメリカ、そして日本からの皆さんと仲良くなることができ本当に良かったです。

報告書

緒方志歩

今回私はこの青少年海外派遣事業に参加させていただいて、たくさんのことを学ぶことができました。

アメリカに行くのは今回が初めてだったので不安もあったのですがずっと行って見たかった国だったので楽しみのほうが大きかったです。

私のホストファミリーは4人家族で、お父さんとお母さんと2人の女の子がいる家庭でした。お父さんは専業主夫で、料理が上手でした。お母さんはPIXARで働いている方で、私のことをすごく気遣ってくれていろんなものくれました。姉妹のお姉ちゃんはハナコという名前で、私と同じ16歳でした。すごく恥ずかしがり屋でほめるといつも恥ずかしそうに“Thank you”というのがかわいかったです。妹はレイラという名前で、私が滞在している間に12歳の誕生日を迎えました。お父さんのお母さんが日本人の方なのでハナコという名前を付けたそうです。

彼らはたくさんペットを飼っていて3匹の犬と一匹の猫と4羽の鶏がいました。3匹の犬は、ラッキーとジュニーとクーパーという名前でラッキーはすごくやんちゃで家に行ったらすぐに飛びついてきました。ジュニーは9日間ですごく懐いてくれて私がソファにいるといつも膝に乗ってきました。

私のホストファミリーはすごく優しい方たちでいろいろな場所に連れて行ってもらうことができ、私が行く前に調べていきたいと思っていたところや、行ってみるまで知らなかったところに行くことができ、アメリカやウォールナットクリーク市の色々なことを知れました。

今回参加したワークショップでは、カメラについて教えていただきました。私はもともとカメラに興味はあったのですが、普段写真を撮るときはスマートフォンを使ってしまうのでなかなか触れる機会がありませんでした。ですが、嬉しいことに一眼レフを貸していただくことが出来ました。説明や設定は英語だし、専門用語でもあるので難しかったですが、バディーや先生方がやさしく教えてくれたので撮り始めることができました。撮り始めてみると私が使っているスマートフォンとは比べ物にならないくらい綺麗に撮れるし、好きな所をぼかす事が出来るので楽しくなってきた500枚以上取ってしまいました。

私はプレゼンテーションで北区の中央図書館と国立スポーツ科学センターについて話しました。中央図書館は家が近くよく行くし、とても綺麗で勉強スペースや蔵書数も豊富で素晴らしいところなので是非話したいなと思い選びました。スポーツセンターは、スポーツは世界共通なので分かりやすいし、2020年の東京オリンピックがあるのでそれを交えてお話しできればいいなと思って選びました。写真をたくさん持って行ったおかげで向こうの方にも分かっていただけました。さらに今回自分で調べたり、一緒に行った人たちのプレゼンテーションを聞いたりして、より一層自分たちが住んでいる北区について詳しくなることができよかったです。

私はホストファミリーのお宅でお好み焼きを作らせていただきました。家族のみんなはおいしいと言って全部完食してくれて私は本当に嬉しかったです。食べ終えた後、私はホストマザーと日本食の話や日本の冷凍食品の話、コンビニエンスストアの話など本当にたくさんのお話をすることができました。文法も単語も滅茶苦茶でしたが、一生懸命聞こうとしてくれるので、ボディランゲージや辞書を使って何とか伝えようと頑張りました。伝わったり、相手が言っていることが分かったりしてコミュニケーションをとることができた時の喜びはすごかったです。さらに英語でコミュニケーションをとることが好きになりました。

ほぼすべての単位や気候、食べ物が違うので大変なこともありましたが、この10日間は私にとって一生の大切な思い出になりました。もしまた行くことができるのならぜひ行かせていただきたいです。

報告書

喜多村直輝

僕は8月11日から21日までサンフランシスコのウォルナットクリーク市に行きました。長いようで短かったこの11日間はとても充実しており、学ぶところがたくさんありました。

1日目、8時間ほどのフライトを経て、サンフランシスコに到着、気持ち的には不安や緊張の方が大きかったです。空港からホテルへ向かう途中、フィッシャーマンズワーフに行きました。その後ゴールデンゲートブリッジに行く予定でしたが、時間の都合上行けずホテルへ向かうことになったのですが、何と道に迷うという事態になり、日本じゃありえないなと感じました。

2日目、ホストの人と初対面の日、まったく会話ができず、このままだとどうしようと考えさせられた1日でした。

3日目、1日中ホストと過ごす日だったので、遊園地にホストフレンドとその彼女と僕と今回の参加者で一緒の家の瞬と行きました。アメリカの遊園地は乗物が早く乗れることもすごかったんですけど、ホストフレンドとその彼女と行くなんて、めっちゃ気まずかったです。でも楽しかったし、アメリカの文化というものを少し知れたと思います。

4日目、初めてのワークショップで緊張してしまい英語を全く聞き取れずとても苦労した1日でした。

5日目から8日目、ワークショップもだんだん慣れてきて、ペアのニックともまともにしゃべれるようになり、ホストファミリーとは仲も深まり、アニメをたくさん観たり、サッカーをしたり、アメリカと日本の政治について語ったりして、緊張や不安も無くなり、毎日が楽しくなりました。



9日目、午前中は1日目に行けなかったゴールデンゲートブリッジに行き、ギラテリにも行きました。ホストフレンドの妹と百味ビーンズでめっちゃ盛り上がりました。



夕方からはフェアウェルパーティーでワークショップの人との最後でした。ペアだったニックは、ナオキがいなくなるなんて寂しいよ。と言ってくれました。アメリカを離れるのは嫌だと僕もずっと言っていました。

その後、何組かの家族とカラオケをしました。日本語も英語も歌い、夜まで騒いだ後、車の中でお母さんに、飼っている犬が庭でスカンクに吠えちゃって、スカンクのおならで家中臭くて。と言われました。事実、とても臭くて部屋に入れず、寝たのはリビングでした。「最後に日本では

ありえないことが起きて楽しかった。」と伝えたら、本当にごめんと言われました。

10日目、朝早くお別れでした。「もっといたい!!」と強く思いました。

このような経験をさせてくださった皆さまにありがとうございます。そして、こんなに楽しめたこの企画を続けてほしいと強く思います。

本当にありがとうございました。



報告書

館野 舜一郎

2020年のオリンピックまであと3年、現在の日本は、グローバル化を進めているが、実際に外国人と話す事ができないという人が多く、また話す事ができて話す機会があまりないのではと思います。今回、海外交流団のメンバーになり、観光地でない閑静な住宅地ウォルナットクリーク市へ訪米することができとても良い経験をしたと思います。

サンフランシスコ到着時、最初に感じた事は日本とは気候が違うということでした。湿度が低いためか少し気温が高くても暑さを感じなく過ごしやすかったです。

初日は、サンフランシスコ市内を視察しました。サンフランシスコ名物のクラムチャウダーを食べましたがとにかく量が多く驚きました。しかも高カロリーな物ばかりなので、この量を食べ、もし運動をしなかったら太ること間違いなしだと思いました。

また、日本食の代表食である寿司は、日本の寿司とは違いマヨネーズベースであり、サンドウィッチの具にできるような寿司でした。

2日目から最終日まで、4人兄弟と両親の計6人家族構成のホストファミリー宅にお世話になり、日中は市主催のワークショップに参加しました。まず、ワークショップでの話をします。写真（おもに自然）の撮り方の指導を受けた後、現地の高校生とペアになります。私は、写真以外の事も色々話し、アメリカの高校生の考え方を知りました。自分の主張・意見をストレートに言いますがそれは自己中心的な感じではなく、相手への思いやりを持った上での主張であると思いました。ホストファミリーも私に気を使ってきているのは凄く感じましたし、ワークショップでペアになった高校生も私に気を使って話しているのも感じました。日本は「おもてなし」の国と言われ世界から良い評価をいただいている反面、「・・・が当たり前」「当然」「普通は・・・」の中で育つ日本人は自己主張が弱く、思ったことを伝えられない。日本での「当たり前」「普通・・・」は一步世界に出る当たり前ではありません。“自ら行動する”ことが大切であると再認識しました。百聞は一見に如かずで、外の世界に出て、身を持って経験することにより感じたと思います。

サンフランシスコ郊外は、土地が広いので、平屋宅が多くお世話になったホストファミリー宅も平屋でとても大きな家でした。洗濯物は外には干さず、乾燥機を使用していました。近隣宅も外に洗濯ものを干している家は、殆どなかったです。日本人は、外に干すのでこの文化は大きく違うと思います。食文化も異なり、朝は簡単な食事でシリアルかパン。昼は日本のようなお弁当でなく、生の野菜とパン（サンドウィッチ等）。夕食は、スープやお肉等。一日の食事が 朝：少・昼：中・晩：多 のようです。

ゴミは、分別するのではなく全て一緒でした。再利用していなくゴミ処理場で全て燃やしているようです。中学生の時、受け入れしたアメリカ人がゴミについて色々質問してきたことを思い出しましたが、ゴミ処理については日本は進んでいると思いました。

また夜は、ホストフレンドに連れて行かれた学校のパーティーで、女の子とダンスをしたことです。日本では、体験できない内の一つです。

また、広い家なので私たちがワークショップへ行っている間に掃除機をかけたと思いますが大変な重労働と思います。しかも移動手段は、車のみなので毎日送迎もしてもらい「感謝」の気持で

いっぱいです。今回の渡米を通じ私自身、文化、習慣、インフラ、治安等多くの日本との違いを目で見て肌で感じました。国際文化に触れ、国際感覚をわずかながら養うことができましたので、今回の参加をきっかけに国際感覚に磨きをかけ、今後の国際社会で活躍できれば良いなと思います。

今回このような企画を計画していただいたおかげであります。
改めて北区の引率者や関係者の皆様に厚く御礼申し上げたいと思います。

ワークショップにて



外食



機内食



ホストファミリーと



日本料理卵焼きを披露

私は藤田さんとトーマス家にホームステイしました。トーマス家は息子さん2人と二匹の犬がいます。息子さんは二人共日本語を勉強していて、兄の方は最近日本に短期留学に行かれたそうです。サンフランシスコは綺麗な町並みが広がっていて、どこを撮っても絵になります。空気が乾いていて涼しい気候なので、過ごしやすかったです。街中皆フレンドリーで、店員と客が知り合いかのように話す姿がすごく印象的でした。日本は敬語の定型文がステータスで、真面目な姿が粋だとされていますが、アメリカでは入店時に店員側が「hi ladies」などと相手によって言葉を変えていて、日本とは違う良さを感じました。街でバスガイドが降車時に乗客1人1人と握手とハグをしていた事がまるで卒業のお別れのような様子が衝撃的で心に残りました。人々の間に壁が無い文化に、更に強い憧れを抱きました。

ワークショップでは、写真の撮り方を学びペアになって作品を作りました。英語での説明は少し大変でしたが、写真自体は難しい英語を使うことがなかったので、ペアとのコミュニケーションは容易でした。ペアになることで、より英語だけを話さなければいけない環境になり刺激になりました。お互いの写真を撮りあったりすることで、言語の壁を越えて、仲を深めることができました。私のペアは、日本語を勉強していて、1週間日本に旅行に行ったことがある。とその時の写真を見せてくれました。

最も印象的な思い出は、ホストブラザーと一緒に日本に留学に行った友人達と集まって一緒にご飯を食べたことです。お互いにお互いの言語の若者が使っている言葉を教えあい、滅多に話せないことを沢山話しました。皆日本の文化や人々が好きだと話していました。わたしも文化に憧れて英語に興味を持ったので、どこの国にも外国に憧れを持つ人はいるのだと共感しました。



Don't seek, wait.

この留学を通して、普段の英語の授業はすごく為になるものだと感じました。ですがまだまだ自分には能力が足りていないことを痛感しました。さらに努力して、将来は英語で役に立てる仕事に就こうと改めて決心しました。母国語は通じない国で過ごすことは寂しく、恋しくなることもあるけれど、それでも英語だけの生活に埋もれたい、英語とともに一生を過ごしたいという気持ちは変わりません。もしウォルナットクリーク市民の生徒達が日本に来たら、次はペアになってダンスを教えあったりゲームをしたりなどと、体を動かしたり競ったりすることが一番距離を縮められると思います。今回のようなより外国人と深く関われる留学制度が広まり、より学生のグローバル化が進むよう願っています。

今回の交流で、私は中学生の時北区海外派遣で受け入れていただいた家庭にもう一度受け入れていただきました。

前は分からない表現を電子辞書で調べ、相手の難しい英語は聞き流すというように自分の英語の幅をあまり広げることができませんでした。今回はとりあえず伝わるかは別として自分の知識の英語の中で話す、彼らの会話の中に出てくる単語を類推し、使ってみてボキャブラリーを増やす、とすることができるようになりました。特にワークショップ内では専門的な用語に応用できました。実際にネイティブが使う言い回しは教科書では習うことができないのでとても良い勉強になったと思います。また、話す内容も以前より増え、今回はアメリカのニュースや、政治についての話もできました。テレビや新聞の報道では聞くことができない生の声が聞け、今までと違う視点を取り入れられたと思います。

私とホストファミリーは前回の派遣から連絡も取り続けていて仲が良かったのですが、更にコンタクトを取るようになり帰国後も英語を使う機会が増えました。以前は SNS を特に便利だと思ったことはなかったのですが、SNS でリアルタイムのチャットが出来ることで遠い隔たりも気にならず、お互いの学校生活やライフイベントを知ることができてとても便利だと感じました。

何より、今回のホームステイで改めてアメリカの家族のあたたかさを感じました。日本で生活していると、感謝を伝える機会も少ないですし、身内を褒めるということもあまり見られないと思います。しかし、私のステイした家庭ではすべて相手にしてもらったことなら必ず感謝をし、送り迎え、食事の時、喧嘩後仲直りした時などには 'I love you.' の一言を添えていました。将来の話をした時には人生で今までにないぐらいホストファミリーは私のことを褒めてくれました。自己肯定感に満ち溢れ、自分がまるで無限の可能性を秘めていて、何にでもトライできるような気持ちになりました。そしてさらに印象的だったのはホストマザーが自分の娘も同じぐらい褒めていたことです。'I'm very proud of you.' という言葉がまるで魔法のように、食卓をとってもあたたかなものにしてくれていたと思います。

高校生という人生の中でも大切な時期に、大切な家族・仲間と貴重な体験をすることができ、とても幸せでした。かけがえのない、そして色褪せることのない美しい思い出になったと思います。今までになかった物の見方や価値観を知り刺激をたくさん受け、グローバル化する社会の中でも通用するような人材になりたいです。



この文章のタイトルからわかるように、私は以前にこの研修とは別の北区の事業で Walnut Creek に行ったことがあります。その事業はホームステイをすることやそれを行う日数などの面でこの研修とよく似たものであり、その時には本当にたくさんのごことを学ぶことができました。しかし、それと同時に「もっとああとけばよかった…」といったことが多くあったのも事実です。そのため、この研修の募集の知らせを知った時、それらを果たすことができると思いその日のうちに応募することを決めました。そんなわけで、私は大きな期待と共にこの 11 日間の研修に参加しました。

まずは、アメリカでの生活について。私は Osborn 家に 9 日間ホームステイさせていただきました。この家族は全員が毎日忙しい生活を送っていて、そんな中でもホームステイを受け入れてくださったことには本当に感謝しています。平日の日中は忙しさからか、朝食や洗濯はすべて自分の好きなようにしていいといういわゆる「Help yourself」といった感じで全員が黙々とそれぞれのことを行っていました。しかし、だからと言ってずっとそんな調子なわけではなく、休日や夜は家族で集まってテレビを見ながら話しあったりしてすごしていました。私もその会話の中に混ぜてもらい、なかなかすらすらと出てこない英語を使いながらなんとか話していました。特にホストフレンドの AJ とは日本のアニメや漫画についての話について盛り上がりました。彼も含めこの研修のホストフレンド達は高校で日本語の授業を取っていて日本に興味を待っている人達だったので、どの家族でも日本についての話題で盛り上がっていたようです。

次にこの研修を通して強く感じたことについて。これはたくさんあるのですが、その中の一つにもっと外国人と話してみたいというものがあります。以前にホームステイした時は相手が何を言っているのかわからないことがほとんどでしたが、今回は自分の英語力が向上したためなのか相手が言っていることはわかることが多かったです。しかしそれに対して私が思ったことを上手く英語に表すことができないということがほとんどでした。そのため今回の方が自分の英語力のなさをより痛感し、そしてもどかしく感じるが多かったです。今ではもっと外国の人すらすらとたくさん会話したいと心の底から思っています。

この研修の中で感じた楽しさ、恥ずかしさやもどかしさは実際に海外に行きその人々の生活を体験しないと味わうことのないものだと思います。それらはほとんどの高校生が経験をしたことがないものであり、それを経験できたのはとても幸運なことだと思います。今後私は物事を他とは違った視点で見ることができ、他にはないものを生み出すことができるかもしれません。考えすぎかもしれませんが（笑）。しかしそれが本当なのかを知るためには、これから様々なことに挑戦して結果を出していくしかありません。今後は新しいことにも果敢に挑戦していく、いわゆる「ハングリー精神」というものを持って行動していこうと思います！



報告書

藤田 和奈

今回、青少年海外交流団の一員として事業に参加することができ、とても濃く充実した 10 日間を過ごすことができました。

私は中学 2 年生の時にも生徒海外交流事業に参加させていただきました。前回の経験や悔しさをぶつけようという目標を持ち、今回の渡米に挑みました。前は相手が何を言っているのか聞き取ることも十分にできず、10 日間でさらっとすぎてしまったのです。

今回こそ積極的なコミュニケーションを取ろうと決め渡米しました。また、北区をウォルナットクリーク市の高校生に知ってもらうこと、自分もウォルナットクリーク市のこと、アメリカの文化についてもっと吸収することも目標にしました。こうした思いとともに始まった 10 日間。あっという間に終わってしまいました。10 日間は前回と比べ物にならないほど充実しており、あまりに短かったです。

今回、私は天野さんとステイしました。私達はホストファミリーとの対面時こそ緊張しましたが、すぐに打ち解けることができました。私達はホストフレンドの Nick と彼の親友の Reggie と行動しました。2 日目に一緒に入ったプールでお互いの距離が縮まりました。そこからは彼らからも話しかけてくれるようになり、会話が弾むことも多くなりました。彼らはご飯を食べる時や犬の散歩に行く時など様々な場面で日本語を使っていて、その日本語からも話かはずみ、とても嬉しかったです。Nick、Nick のお兄さんの John、Reggie とだけでなく、John の高校時代の日本語クラスの友達とも出掛け、日本の好きなお店、映画のことをたくさん話したり、日本語で会話することもできました。私よりも日本のアニメなどを知っていて、私がそうなのかと知ることもありました。他国の文化について興味を持つ前に自分の国について知ることが大切ということをも身をもって学びました。

5 日間参加したカメラのワークショップでもたくさんのことを学びました。一眼レフを扱うのはとても難しく、ボディや友達に頼りながらなんとか写真を撮りました。一眼レフの操作が難しかったからこそ嫌でも英語でコミュニケーションを取らなければならなく、ボディとの距離も縮めることができました。カメラのワークショップで特に思い出に残っているのが Zine 作りです。ボディごとに、撮った写真の中でお気に入りを選び小さな冊子 Zine にしました。初めてフォトショップを使って加工したり、写真選びでボディとたくさん話したり、ワークショップでの思い出が全て詰まった冊子になりました。

最後の 2 日間は中 2 の時からの友達の Ellen の家にステイでき、中 2 の時にできた友達の数人に出会うこともでき、最高の 2 日間でした。

今回の青少年海外交流事業に参加することができて本当に良かったです。自分の確かな成長を感じることができ、新しく友達を作ることもでき、有意義な 10 日間でした。今でもこの 10 日間のことは昨日のことのように振り返ることができます。ホストフレンドとも連絡を取り合っているため、これからも関係が途絶えないように交流を深めて行きたいです。Nick、John、Reggie、Ellen とのお別れの時「2020」と何回も言われたので、3 年後また彼らと会えることを楽しみにしながらこれからも英語の勉強や日本の勉強を頑張ります。

初めてのアメリカ

宮地智梨

今回のアメリカへの留学は、私にとって初めてでした。いろいろなことをイメージしながら期待と不安で胸がいっぱいでした。飛行機の中でも、ホストファミリーはどんな人かなとか英語がちゃんと伝わるかなととてもドキドキしていました。サンフランシスコ空港からバスでホテルへ向かうとき、外の景色を眺めながら自分は本当にアメリカにいるのかと不思議な気持ちになりました。



初日はみんなでフィッシャーマンズワーフに行って、私はクラムチャウダーを食べました。すごくおいしくて飛行機での疲れが一気に吹っ飛びました。夜はホテルでアメリカという感じのピザを食べ、その後はプールで楽しみました。その夜はホストファミリーに会うのが楽しみすぎてなかなか眠れませんでした。



次の日、ついにホストファミリーに会う時がやってきて、次々にみんなのホストファミリーが来ました。私はホストファミリーの顔を知らなかったため、どの人が自分のホストファミリーなのか分かりませんでした。しかし向こうから声をかけてくれたので安心しました。私のホストファミリーはとてもいい人たちでした。ゴールデンゲートブリッジやおしゃれなチョコレート屋さんなど、毎日のようにいろいろなところに連れて行ってくれました。私が一番心に残っていることは野球の試合に連れて行ってもらったことです。野球観戦が大好きな私のためにチケットをとってくれました。また、野球観戦中にホストファザーが飛んできたファールボールをとって私にくれました。その時本当に嬉しくて泣きそうでした。ホストマザーは私のために毎日ランチを作ってくれたり、何か必要な物があったら教えてねと声をかけてくれたりといつも気にかけてくれました。ホストシスターとブラザーも優しく話しかけてくれました。毎日が本当に楽しくて時間がたつのがあつという間でした。この生活が永遠に続けばいいのにと何回も思いました。ホストファミリーは私の下手な英語を理解しようとしてくれたり、本当の家族みたいに接してくれました。ホストファミリーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。





毎日行われた写真教室もすごく楽しかったです。いつもはスマートフォンでしか写真を撮らないので、本格的に写真を撮ったのは初めてでした。また、同世代のアメリカ人と英語で交流する機会などめったにないのでとても良い経験になりました。時々自分の思っていることが上手に言えなかったりしたけど、写真を通して話したり笑ったりすごく充実した時間を過ごせました。



アメリカに行く前は不安なことだらけだったけど、帰国する時は日本に帰りたくないと思うほど楽しめました。本当に今回アメリカで最高の経験をすることができました。ここで学んだことを無駄にせずこれからの生活に生かしていきたいです。また、これで満足するのではなくこれからも英語力向上のために努力していきたいです。

アメリカにホームシック

吉田はなこ

私は今回が初めてのホームステイで分からないことが沢山あり不安でした。ですが、明るく優しいホストファミリーに迎えられ本当に充実した日々を送ることができたと思いました。アメリカには過去に家族と旅行で訪れたことはあったものの、アメリカの表面的文化にしか触れていなかった私は、ホームステイという1番アメリカの生活に近い形で様々な体験をすることができ、新しい発見、驚きの連続でとてもいい刺激を受けることができました。ただの観光では絶対に体験できない色々な貴重な体験ができたと思います。

また、ホストファミリーがそれぞれ自分のお気に入りの場所に連れて行ってくださったり、英語に慣れていなかった私が聞き取りやすいよう話しかけてくれるなど、とても親切にして下さったことにより私は、1度もホームシックにもならずホストファミリーと過ごした日々は、本当に毎日が輝いてました。そんな優しくクリエイティブでファンキーなホストファミリーが大好きです。特に、ホストシスターとは美術が好き、日本語を過去に勉強していたという共通点もありお互いの言語で話したり、教えあったり、ゲームをしたり絵を描いたり一緒にワークショップに参加したりなど、様々な形でコミュニケーションをとることができてとても楽しかったです。四六時中一緒にいても飽きずに私と会話をし笑わせてくれた、彼女の明るさに何度も救われました。私の英語力が不十分でもこんなにも楽しくコミュニケーションを取ることができるんだと思いました。そして、もっともっと英語を勉強してまた会いに行きたいと思います。

そして、改めて本当の家族のように接してくれたホストファミリーに感謝の気持ちを伝えたいです。単に英語力を伸ばすより、はるかに大切な事を学べたと思います。日本にとどまっていたは絶対にわからなかった事、できない体験ができて嬉しかったです。

日本語を使ってもあの時味わった感情などは言葉ではほんの少ししか言い表せません。あの時、あの瞬間、あの感情、思い出の全てを脳裏にしっかりと焼き付けて決して忘れません。そして、この機会を与えて下さった全ての方々に感謝します。有難うございました。



平成29年度 北区青少年交流団
ウォルナットクリーク市派遣報告書

発行日 平成29年11月

編集発行 北区総務部総務課

〒114-8508

東京都北区王子本町1-15-22

TEL. 03(3908)9308